

■レオポルト・モーツァルト／アルト・トロンボーン協奏曲

モーツァルトの父親でザルツブルク大司教の宮廷楽長を務めたレオポルト・モーツァルト（1719-1787）は、1756年後半にアルト・トロンボーンのための3つの楽章を書いている。同年、ザルツブルクの宮廷楽団へ入団するトロンボーン奏者の審査に立ちあつたレオポルトは、トーマス・ゲシュラットという優れた演奏家と出会う。ゲシュラットが入団すると、次々と他の作曲家が彼のためにトロンボーン活躍する曲を書いたが、レオポルトの作品もその一つである。作曲家の生前には協奏曲として出版されることはなかったが、晴れやかな第1楽章アレグロ、コラール風の優しい楽想をトロンボーンが奏でる第2楽章アダージョ、朗らかで闊達な第3楽章プレストからなる曲の構成は、まさに急・緩・急という典型的な協奏曲形式になっている。

白石美雪

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。

楽器編成：オーボエ2、弦五部、独奏トロンボーン